

定期作況報告

(第6号 平成14年10月20日現在)
北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

9月下旬：最高気温は平年より0.6℃高く、最低気温は平年より1.9℃低かった。降水量は平年より25mm少なく、平年対比56%であった。降水日数は平年より3日少なかった。日照時間は平年より20.2時間多く、平年対比144%であった。

10月上旬：最高気温および最低気温は平年より各々1.5℃、3.4℃高かった。降水量は平年より1mm多く、平年対比102%であった。降水日数は平年より3日多かった。日照時間は平年より20.2時間少なく、平年対比47%であった。

10月中旬：最高気温および最低気温は平年より各々1.8℃、0.4℃高かった。降水量は平年より21mm少なく、平年対比32%であった。降水日数は平年より2日少なかった。日照時間は平年より24.2時間多く、平年対比165%であった。

9月下旬から10月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	9月下旬			10月上旬			10月中旬 ※			平均または合計 ※		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	19.3	18.7	0.6	17.3	15.8	1.5	15.7	13.9	1.8	17.4	16.1	1.3
最低気温(℃)	6.4	8.3	▲1.9	9.2	5.8	3.4	4.0	3.6	0.4	6.5	5.9	0.6
平均気温(℃)	12.3	13.1	▲0.8	12.8	10.5	2.3	9.5	8.5	1.0	11.5	10.7	0.8
降水量(mm)	31	56	▲25	44	43	1	10	31	▲21	85	129	▲44
降水日数(日)	3	6	▲3	8	5	3	3	5	▲2	14	17	▲3
日照時間(h)	65.8	45.6	20.2	18.3	38.5	▲20.2	61.5	37.3	24.2	145.6	121.4	24.2

注1) 比布アメダス観測値により上川農試で算出。

2) 平年は比布アメダス前10か年の平均値。上川農試で算出。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

4) ※「10月中旬」および「平均または合計」のうち10月19日は、比布アメダス欠測のため上川農試マメダス観測値を使用。

2. 作 況

1) 水 稲 : やや不良

事 由 :

【籾数】穂数は平年を上回ったが、一穂籾数が平年をかなり下回った。このため、 m^2 当たり籾数 (m^2 当たり穂数 \times 一穂籾数)は平年をやや下回った。

【稔実歩合・稔実籾数】稔実歩合はほぼ平年並で、 m^2 当たり稔実籾数 (m^2 当たり籾数 \times 稔実歩合)は平年をやや下回った。

【登熟歩合・ m^2 当たり登熟籾数】登熟歩合は中苗が平年並で、成苗は平年を上回った。このため、 m^2 当たり登熟籾数は中苗が平年を下回り、成苗は平年をやや上回った。

【精玄米千粒重】平年をやや下回り平年対比96~98%であった。

【精玄米重】粒厚1.90mm以上の収量は、「ほしのゆめ」中苗が平年対比93%で、「きらら397」の中苗および成苗は平年対比それぞれ96、95%であった。

いずれの品種・苗も収量が平年を下回り、品種・苗を込みにした収量の平年対比は95%であった。また、千粒重が平年をやや下回ったものの、玄米品質はほぼ平年並と推定される。

このため、本年の作況はやや不良である。

表2 生育期節

品 種 苗	成熟期 (月・日)			登熟日数 (日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	9.22	9.20	2	53	53	0
ほしのゆめ 中苗	9.18	9.14	4	51	49	2
きらら397 成苗	9.19	9.19	0	54	55	▲1

注1) 平年値は平成7~13年の7カ年から平成10年・平成11年を除いた5カ年の平均値。

ただし、「ほしのゆめ中苗」は平成9~13年5カ年の平均値。

2) ▲印は平年に比べて減を示す。

表3 収量構成要素・決定要素および収量

品 種 苗	m^2 当り穂数 (本)				一穂籾数 (粒)				m^2 当り籾数 ($\times 1000$ 粒)			
	本年	平年	差	比 (%)	本年	平年	差	比 (%)	本年	平年	差	比 (%)
きらら397 中苗	761	672	89	113	43.1	49.1	▲6.0	88	32.8	33.6	▲0.8	98
ほしのゆめ 中苗	804	756	48	106	38.7	45.9	▲7.2	84	31.1	34.3	▲3.2	91
きらら397 成苗	780	704	76	111	40.3	47.6	▲7.3	85	31.4	33.4	▲2.0	94

品 種 苗	稔実歩合 (%)				m^2 当稔実籾数 ($\times 1000$ 粒)				登熟歩合 (%)			
	本年	平年	差	比 (%)	本年	平年	差	比 (%)	本年	平年	差	比 (%)
きらら397 中苗	90.0	91.1	▲1.1	99	29.5	30.7	▲1.2	96	75.0	75.8	▲0.8	99
ほしのゆめ 中苗	92.1	91.6	0.5	101	28.7	31.4	▲2.7	91	79.7	79.9	▲0.2	100
きらら397 成苗	92.1	90.0	2.1	102	29.0	30.1	▲1.1	96	85.1	77.4	7.7	110

品 種 苗	m^2 当登熟籾数 ($\times 1000$ 粒)				精玄米千粒重 (g)				精玄米重 (kg/10a)			
	本年	平年	差	比 (%)	本年	平年	差	比 (%)	本年	平年	差	比 (%)
きらら397 中苗	24.6	25.4	▲0.8	97	22.0	22.4	▲0.4	98	572	598	▲26	96
ほしのゆめ 中苗	24.8	27.4	▲2.6	91	21.4	22.4	▲1.0	96	541	583	▲42	93
きらら397 成苗	26.8	25.7	1.1	104	22.4	22.8	▲0.4	98	578	606	▲28	95

注1) 平年値は表2に同じ。

2) ▲印は平年に比べて減を示す。

3) 稔実歩合：触手で求めた。

4) 登熟歩合：比重1.06の塩水選で求めた。

5) 千粒重・精玄米重：粒厚1.90mm以上。水分15.0%に換算。

2) 秋まき小麦 : やや良

事由: 播種期が平年より8日早く、草丈、茎数、葉数ともに平年を上回っている。

したがって、目下の作況はやや良である。

表4 10月20日の秋まき小麦の生育

品 種 名	播 種 期 (月日)			草 丈 (cm)			茎 数 (本/m ²)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
タイセツコムギ ホクシン	9. 5	9.13	△ 8	37.7	22.2	15.5	1872	1053	819
	9. 5	9.13	△ 8	35.1	21.3	13.8	2035	1119	916

品 種 名	葉 数 (枚)		
	本 年	平 年	比 較
タイセツコムギ ホクシン	6.3	4.7	1.6
	6.7	5.0	1.7

注1) 平年値は、前7か年中、平成9年、14年を除く5か年の平均値(収穫年度)。

2) △は平年より早を示す。

3) とうもろこし : やや不良

事由: 収穫期は平年より6日遅かったが、登熟期間の気温が全般に平年より低く経過したため、収穫時の熟度は平年より遅れた。不稔個体割合は平年より低かった。乾総重、乾雌穂重とも平年を下回り、総体の乾物率も雌穂の登熟が遅れたため、平年より低かった。この結果、TDN収量の対平年比は95%~97%と平年を下回った。

したがって、作況はやや不良である。

表5 とうもろこしの収量

品 種 名	収 穫 期 (月日)			収 穫 時 熟 度		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
キタユタカ P 3 7 3 2	9.27	9.21	6	黄初	黄中	—
	9.27	9.21	6	糊後	黄初	—

品 種 名	不 稔 個 体 割 合 (%)			乾 総 重 (kg/10a)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
キタユタカ P 3 7 3 2	8.3	9.4	▲ 1.1	1643	1746	▲103
	0.0	16.3	▲16.3	1897	1926	▲ 29

品 種 名	乾 雌 穂 重 (kg/10a)			総 体 の 乾 物 率 (%)			T D N 収 量 (kg/10a)			
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	対 平 年 比 (%)
キタユタカ P 3 7 3 2	804	816	▲ 12	24.5	27.3	▲2.8	1172	1235	▲63	95
	685	791	▲106	23.0	27.6	▲4.6	1288	1333	▲45	97

注1) 平年値は、前7か年中、平成12年、13年を除く5か年の平均値。

2) 平成10年度より栽植本数を7576本/10aに変更した。

3) ▲は平年より減を示す。

4) 大豆 : 不良

事由： 成熟期は「トヨムスメ」で平年並であり、「トヨコマチ」では平年より2日遅れた。主茎長は両品種とも平年より短く、主茎節数及び分枝数は「トヨムスメ」で平年を下回り、「トヨコマチ」では平年並であった。着莢数は両品種とも平年を大きく下回っている。したがって、作況は不良である。

表6 成熟期の大豆の生育

品 種 名	成 熟 期 (月日)			主 茎 長 (cm)			主 茎 節 数 (節)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	10. 2	10. 2	0	57	63	▲ 6	9.8	10.4	▲0.6
トヨコマチ	9.26	9.24	2	61	65	▲ 4	10.9	10.9	0

品 種 名	分 枝 数 (本/株)			着 莢 数 (個)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	6.8	7.2	▲0.4	62	81	▲19
トヨコマチ	6.6	6.6	0.0	60	80	▲20

注1) 平年値は、前7か年中、平成7年及び平成8年を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

5) 小 豆 : 良

事由： 登熟期間が長かったため、百粒重は両品種とも平年よりかなり重く、子実重は平年より34%~45%多収となった。屑豆率は両品種とも平年より低い。したがって、作況は良である。

表7 小豆の収量

品 種 名	子 実 重 (kg/10a)			
	本 年	平 年	比 較	対平年比(%)
サホロショウズ	453	338	115	134
エリモショウズ	474	328	146	145

品 種 名	100粒重 (g)			屑 豆 率 (%)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	16.0	13.6	2.4	0.8	3.1	▲2.3
エリモショウズ	14.6	11.9	2.7	0.8	2.3	▲1.5

注1) 平年値は、前8か年中、平成6年、平成12年、平成13年を除く6か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

6) ばれいしょ : 平年並

事由: 「農林1号」の上いもならびに中以上いもの収量は平年比111%、120%と高かった。でん粉価は平年に比べ2.7%高く、でん粉収量は平年比131%と多収であった。

「男爵薯」の枯凋期は平年より1日早かった。上いも収量は平年より436kg少なく平年比91%で、中以上いも収量は平年比93%と低収であった。

平年に比べ早生種は低収であったが、晩生種は多収であった。
したがって、作況は平年並である。

表8 収穫期のばれいしょの生育、収量

品 種 名	枯凋期(月日)			上いも重(kg/10a)			中以上いも重(kg/10a)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
農林1号 男爵薯	9.22	未達	—	5985	5373	612	5670	4720	950
	8.23	8.24	△ 1	4169	4605	▲436	3587	3842	▲255

品 種 名	でん粉価(%)			でん粉重(kg/10a)			収量平年比(%)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	上いも	中以上	でん粉
農林1号 男爵薯	17.1	14.4	2.7	964	734	230	111	120	131
	14.6	13.5	1.1	—	—	—	91	93	—

注1) 平年値は前4か年の平均値。

2) △は平年より早を示す。▲は平年より減を示す。

7) てんさい : やや不良

事由: 生育初期に干ばつを受け、7~8月は低温・多雨に経過した。このため、9月以降湿害によると思われる茎葉の黄変が進行し、生育は平年をやや下回っていた。収穫は平年より1日早い10月16日に行ったが、茎葉重ならびに土砂付き根重とも平年を下回っている。根中糖分、糖量は現在分析中である。

したがって、目下の作況はやや不良である。

表9 収穫期のてんさいの生育、収量

品 種 名	茎葉重(kg/10a)			根重(kg/10a)			根中糖分(%)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
モノホマレ	5358	5470	▲112	(7461)	7938	(▲477)	—	16.6	—

品 種 名	糖量(kg/10a)			平年比(%)		
	本年	平年	比較	根重	根中糖分	糖量
モノホマレ	—	1304	—	—	—	—

注1) 平年値は前7か年中、平成10年、11年を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

3) 根重は本年は土砂付き重量を、平年値は土砂引き重量を示す。